

婦人關係資料シリーズ
国際資料 No. 5

ホーム・メーカーの経済的寄與

63

労働省婦人少年局

本書はアメリカ政治社会学会士院編纂の年鑑(一九四七年版)中の「婦人の進出と地位」

(Women Opportunities and Responsibilities)

のなかのマーグレット・G・レイド著 The

Economic Contribution of Housewives

を訳出して、一九五一年に刊行したものです。

家庭や社会の経済生活において婦人の実力をよりだてることを目標として実施する中六回婦人週間にあたり、参考資料として増刷することになりました。

一九五四年三月

労働省婦人少年局

- ◎家事作業の傾向
- ◎家事作業をするのは誰か
- ◎フル・タイムのホーム・メーカーの数
- ◎一九四〇年の一年間
- ◎大体の趨勢
- ◎貨幣に換算した主婦の経済的寄与
- ◎家族所得への寄与
- ◎国民所得への寄与
- ◎家々によるちがい
- ◎商品及びサービス買入れ状態
- ◎家事作業を軽くするための支出
- ◎家庭裁縫の重要性の度合
- ◎家事のために費される時間
- ◎未来は何をもたらすか

ホーム・メーカーの経済的寄与

マーグレット・G・レイド

こゝでいうホーム・メーカーとは、家事に対する主要な責任者であり、かつこの仕事のために賃金を受け取らないものを意味します。こゝいう婦人はたくさんいるので、この一文は実質上、吾々の経済の中の一つの大きな事業についての報告であります。

家事作業の傾向

今日の家庭は一世代又はそれ以前の家庭とくらべて驚くべき対照を呈しています。以前は食物や衣や住や娯物やその他の必需品を生産した労働が今は家庭から姿を消したことは、多くの人々に、生産が家庭を去り、家庭が消費の中心になったといわせるようになりました。けれども家庭はもとから消費の中心であり、消費と生産とはちがったにしても、家庭にはなお重要な生産的機能が残っているのを認めることは大切

です。いま残っている家事作業は大部分、食物の調製とそれに伴う仕事、子供の世話、すまい、ぎもの、家具の手入れ、あらゆる器物やサービスを買ふことから成立っています。これらの活動は原料を供給するものではないにしても、家族生活にとつてなくてはならないものであります。この事實は、あまり陳腐でないホーム・メーカーの場合でさえ、その仕事をするために他人を雇い入れようとする際よくわかりま

す。家事作業が原料の生産と製造とから消費のサービスへと移り渡ったことは、一種の生産体系の移り変

りと相違しています。一八七〇年にはすべての収入のある労働者の四分の三、一八三〇年にはその半分が農業、製造業、機械工業及び鉱業に従事していました。同じ期間における商業、交通業、その他のサービス産業に従う労働者の数は倍になりました。こういう労働者の割合の多いことは生活水準の高いしるしと見られることもありました。少くとも一世代前に必要と考えられていた仕事に近耳のホーム・メーカーはそれほど多くの時間ををくわれず、相当に繁榮している社会しか与えることのできなげな産業や職業にその時間をさいでいます。

に計つています。オーストラリアの重要なことはホーム・メーカーの数のヘクタールです。これについての研究は、後ののべるとして、これにはその減少を示す重要な変化を二三あけてみます。

過去五十年間を同じ。それ以前と同様。十年毎に、一人の婦人が世論する子供の数がへつてきています。一九一〇年には結婚したことのある十五才以上七十四才までの婦人の四二%は四人ないしそれ以上の子をもつたことを報告しています。一九四〇年にさういう報告をしたものは六割にすぎませんでした。

二 家庭でたべる食物は、遠々にそのまゝ、すぐ食べられるような状態で賣うことが出来るようになり、營利的な飲食店で食事をとること加へんく、多くなつてきています。合衆國では出売りの食料品及び飲料品の売上は高一個ドルに對して、飲食店の売上は高は一五三・五耳には四五・七ドルであつたのが、一五四・五耳には四五・七ドルに増えてきました。

をさぐりいねすること、家を塗ること、壁紙をはること及びそれに類する仕事などがそれです。病院を利用することがかえたことなど、家庭を去つた個人がサーカイスの着しい例を提供しています。一九四〇年には、お座の七六名が病院で行われました。

四今のすまいは、以前深慮で行われた多くの仕事を、するだけの広さをもちたくなり、また、更に近代の設備は、以前にはいらない、つた物のおき場所を要するようになり、また、今まで起つた変化の中では、買物が非常に大きな仕事となり、近代的な掃除道具が使われている場合でさえも、都市の煙や埃は、清掃に要する時間をおよぼしました。ホーム・メーカー一人当りの子供は少なくなつても、大抵の家族が、極む都市の環境は、一人当りの子供にかゝる時間と精力を大つと多くしました。遊びも並蓄しなければならず、以前は数箇のきまりきつた仕事であつたことを、子供たちには、経験させるために、特別に手をかけなければなりません。

科學もまたホーム・メーカ―のために生活を犠牲にし過ぎた。以前はホーム・メーカ―が自分の母親から家族の食事を調えたり、子供を育てたりするための基本的な規則を学んだのです。今は学校、ラジカ、雑誌から最新の事実を学ばなければなりません。ホーム・メーカ―たちはその努力のしがいがあったと感じているでしょう。出生死一〇〇。人に対する乳児死亡率は一九一五年の一〇。〇から一九三五年の六五。一、九四六年の三七に下がりました。けれども個性の発達や社会的行動状についてはどういう満足感が見られませんか。あるいは習慣は多くすてられて、今ホーム・メーカ―に与えられるものは、その劣感をへらし、自己を与えるに足りない、叔輩のない矛盾した附帯ばかりなのです。

家業を継ぐのは誰か

この変化した家庭生活の中では、職業は多くホム・メーカーの上にかゝつて来、それを支や、通学中又は職業をもつ子供たちが多少手伝ひ、なお幾分は家の家族や雇人が手をかすぐらいのところだ。学校の数程はますます多くの府間をとり、更に現在の文化生活のありかには特に割合の子供たちには家事職業の重要なわけをえをあたへない。以前には娘たちが結婚まで家庭に留まる習慣であつたのが、今では職業地帯の家族の場合のほか、高等学校又は大学がするむすや職業につくのが普通で、その結果娘達が家

庭を出ることになります。家庭に留まるとしても、母親がそこにいる限り、家事労働に対する家の負担はごく僅かです。のみならず、数多くの仕事を手放すお婆あさんをかくめた三代の家族はいくらもありません。たいてい一つ横いをつける方ができてきた。それは男、女間の習慣的な分業が崩れて、多くの家庭の男たちがあらゆる種類の家事作業を手つたうようになつてきたことです。

ほかの多くの同様の場合と同様、家事使用人の変化についての資料も甚だ少ないのです。一九四〇年の中は、一〇〇〇世帯毎に女中五〇人、洗濯女六人、家政婦六人でした。多くの家庭ではパート・タイムの労働の手放しいし、使つていないので、一〇〇〇世帯毎に五〇人以上が家政婦や洗濯女のために賃給の手放いをするのでいきました。

一九四一年の共同社会と所得水準の類型による有給労働者の統計は、(一)都市家庭の五分の一、農村の家
庭の六分の一は補給の賃給の手放いを催す。(二)都市の家事手放人は農村のそれよりも賃用が三倍多くか
ゐる。(三)都市と農村との収入のちがいはもつと大きいことを報告している。

フル・タイムのホーム・メーカーの数

又、婦人は母子をかくむ大抵の世帯には、家事作業を行うことによつてその一家の消費増進に重要な寄与
をする婦人が少くとも一人はあります。実際、婦人が労働力の中に入るか、フルタイムのホーム・メーカー
になつてゐるかを定めるのは、おしに困難してゐるかいけないかの問題なのです。

他の労働者の仕事にくらべて、ホーム・メーカーの仕事がどの程度に重要であるかを計りたいと思ふは、
世帯持の作業婦人は、他の労働者にくらべて平均して家事の負担が重いとしても、この場合、家業の主婦
だけにとりあつてゐるのが一層よいことでしょうか。

労働者のどんなグループにせよ、もちろんその数だけでは社会にとりだけ寄与してゐるかを計ることば
できません。けれどもホーム・メーカーの場合、その労働の時間、その一週間の労働時間の長さ、失業のな

いことなどが、その数の多さに比例してその社会的寄与の大きさを示しています。いわゆるホーム・
メーカーの仕事の中には幾にも立たぬ品物やサービスを含んで大體に振替するための、單なる忙がしがらにつ
がされる時間が多いという人々もありません。が、そういう人々は、賃金労働者の収る物の中にも無益な物
の多いことを認めるでしょう。ホーム・メーカーの中に急ぎ寄やのらくら寄かいることをかれこれいう人
もありましょう。しかし、そういう人は、ホーム・メーカーの中にだけいるのではなく、たぶんホーム・メ
ーカーの中には比較的さういう者が少いのではないでしょう。

一九四〇年の一年間

一九四〇年には家業よりほかの仕事をもつていないことを報告した十四才及びそれ以上の婦人が二九
百ありました。同時に有業者又は労働力の中にある男女、即ち現に働いてゐる者、一時失業してゐる者
又は懸念に求取中の者が五十三百ありました。

いゝか、これは労働力の中の百人毎に對し、家業のみに従つてゐる女性が約五十五人あつたのです。潜在的な
女子労働力は、労働力の中の約八分の一、又は自分の家の家事作業にしかたずとわらない女子から成
り立つてゐると見ていいでしょう。そのうち六九%はフルタイムのホーム・メーカーであり、三一%が勞
働力の中にはいつていました。

どんな産業に働いてゐる労働者でも、フル・タイムのホーム・メーカーは多くはありませんでした。
一九四〇年に一週間の多かつたのは製造業に従う労働者で一千一百万でした。これはフルタイムのホーム
・メーカーの半かゝと三分の一との中間に當つていました。

大體の趨勢

一般に家事作業が相對的に衰微したことは、実収入に對するホーム・メーカーの経済的寄与が減少したこ

とをはかるには、すべての労働者及び女子有業者に対する、フル・タイムのホーム・メーカーの相対的な数が一層よいものさしとなります。

國勢調査の提供した資料によつてさういう変化をはかつてみれば、一九〇〇年から一九四〇年までの間に、労働力における男女一〇〇人につき、フル・タイムのホーム・メーカーは五九人から五五人にへつたばかりです。高等学校の新生徒がふえたことが労働力に参加する人数を多くへらしたことも、専任のホーム・メーカーが余りへらない原因の一部をなしています。婦人の職業が多くなり、家計収支がへつたところかんにいわれるのにくらべて、このフル・タイムのホーム・メーカーのへり方は余り少く思われましよう。最も著しい変化はフル・タイムのホーム・メーカーの数を職業に従う婦人の数にくらべた時、よく分ります。一九〇〇年には労働力の中の婦人一〇〇人につき、フル・タイムのホーム・メーカーは三二八人でしたが、一九四〇年にはわずか二五五人でした。これは三〇多の減少です。一九四〇年から一九四五年までの間に更に三〇多へつて、数は一五四人までになりました。

貨幣に換算した主婦の経済的寄与

ホーム・メーカーの経済的寄与を金銭に見つめることは一家のとりぎめに重要であり、経済的進歩を正確に評価するために必要です。

家族所得への寄与

非常に多量の婦人が専任に家事に従う事實は、多くの家族にとつて、婦人のサーヴィスが、少くともその婦人たちの働き場と同じ価値をもつことを意味しています。もちろん夫収入以外の要素が決定にはいつている家庭もあり、婦人が職業をもてば、商品やサーヴィスを買い入れる費用がよいになります。けれどもこれは次の三つの方法のうちどれかを横うことができます。(一)主婦が職業をしたなかつた額は、

家族がうけていたサーヴィスを、今はなしで済ませること。(二)他の家族が時間をさいて余分の仕事をひきうけること。(三)職業をもつ主婦が家事収支をしつづけること。主婦で職業をもつ者は、私生活の社会で最も豊かになやむ人々の集團であります。

ヒルデガルド・エーランドは一つのサーヴィスを金銭に見換つて、ホーム・メーカーの金銭的寄与をたいて、一九二九年に最高一萬三千ドルの稼ぎ高に相当すると見ました。

しかし一九四六年にワシントン・デトロイト・ユースの二橋着者は三千ドルとはあまり安すぎると感じました。つまり一人のホーム・メーカーの代りに、四人のフル・タイムの労働者、母親、料理人、女中、及び庭師、とパート・タイムの者が二人いるというのです。これを基礎とすればホーム・メーカーの一時間の寄与は九、〇六ニドルとなります。もし一人が同時にわけなくやれる数種の仕事についての記録をとらないとしても、これと同じような支出を見積らねばならぬ。家庭が安いことでしょう。家庭にとつて社会せむことには、法律上の論争は主婦が一人の労働者として料理人、掃除女中、洗濯女、及び庭師を兼ねることに対して干渉しません。

金銭的寄与をはかるもう一つのものさしは、主婦がやるべき家の仕事をやることでできる贈与です。家庭で食物を生産し貯蔵することなどだけの場合の金銭的節約となるかについて、多くの研究が行われ、その報告書は純増的額を示しています。しかしそれらはフル・タイムのホーム・メーカーがいる主要な理由ではありません。それらは子供の世話、食物の調理、清掃及び買物などの主要な仕事に附随するものがあります。

国民所得への寄与

ホーム・メーカーの寄与は、それを決定する贈与手段が存在しないので、国民所得の評価から省かれています。ほかの労働者のそれは賃金又は生産物の売上から受けとつたドルの中に計算されています。ホーム・メーカーにはさういうフクがないので、毎年国民所得を計算する責任をもつ人々が、家庭の恒給

労働者以外の者によつてそこを行われる仕事のために煩わされることを望まないのみしきではありません

今までのフルタイムのホーム・メーカーの経済的寄与についての評価がバラ／＼に行われたことはあります。それは大抵家事労働者の稼ぎ高を基礎としたものでした。この賃金の基礎は、その評価が高すぎる恐れはまずありません。これによるとフル・タイムのホーム・メーカーは一九四〇年には一億五千ドル、一九四五年には三億四千ドルを寄与しました。報告された園芸所得一〇〇ドルにつきフル・タイムのホーム・メーカーは一九四〇年に付二〇ドル、一九四五年には三〇ドルを寄与したわけですから

家族によるちがい

ホーム・メーカーの経済的寄与と、その行う家事作業の種類は、社会全体により、その社会の中の家族によつて大きな開きがあります。これらについての事實はその変化をもたらし力をいくぶん明らかにしています。

都市よりも農場の家事作業の量を多くする要素はいくつかあります

一 農場の家族の方が子供が少い。例えは一九四〇年には、三〇人から三四人までの女子一〇〇人につき、五人以上の子供の数が都市では三五人、農場では六六人でした。

二 農場の家族の方が食料自給の機会が多い。一九四一年に、合衆国の二入ないしそれ以上の一家族につき、自家製の食料の価値は都市五ドル、農場三三ドルでした。この農場の食料は大部分鶏、豚、乳牛及び養鶏場の家禽から来るもので、農場の主婦にはその生産物を処理する仕事がいっぱいあります。のみならず、都市の家族より農場の家族では、食料をかんすめたり貯蔵したりすることが遙かに多いのです。例えは一九四一年には都市の食料四一クォートをかんとしたのに対し、農場の家族では

二四三クォートが報告されています。

三 農場のホーム・メーカーは収益ある仕事に従事しています。一九四〇年に十四才及びそれ以上の女子人のうち、農場では一四％、都市では三一％が労働力の中にあると報告されました。しかしこの数字は貨幣所持に対するものの数値の相対的寄与についてのごく正確なものではありません。労働力のの中にはいつていると報告されていないホーム・メーカーの中に、農場経営に対して重要な役割を努めているものが多量あります。そして普通にながやることになつていて、こまかい雑用は、かみたちを労働力の中に入れるには足りませんが、貨幣所得の重要な源泉であり得るのです。

四 農家の平均貨幣所得は割合に少ないのです。一九四一年に家族員数五人又はそれ以上の農家及び都市農家の平均貨幣所得は各一人当り二ハドル及び七セツドルの貨幣所得がありました。農家は直接の金融支援なしで住宅と食物の大都市を養育するので、収入を比較する上には食と住とが提供されたあとに残るものをくらべた方がよいのです。そうしてさえも農場の収入は少く、農場では一人当り一セツドル、都市の家族では三セツハドルでした。住所得は多くの家庭に家事作業を自分らの手でやることをよきなくします。

農場の家族は家事作業をへらすために商品やサービスを買ふお金が都市よりも乏しい。たとえばパンや菓子類の消費額は数が少く、ねだんも割合に高いのです。洗濯その他清掃についてのサービスも置例は少く、例えは、おまつ専門の洗濯業などは殆んどすべての農場の家族に知られていません。このほかいくつでも例をあはれることができます。

表(1) 商品及びサービス買入れ状態 —— 合家園

居住地区 年間貨幣所得	家庭外食費 の百分率 (1941)	家庭調理用小麦粉及び食品 に対する既成パン類買入れの割合		洗濯屋を利用する	
		粉/パン対し 買入れ比率	粉/パン対し 買入れ金額	家庭百分率	平均支出額
柳 市	18	2.30	9.36	40	56 ¹²
農村 - 非農家	7	0.30	1.38	20	30
農村 - 農家	3	0.17	0.75	10	24
都 市					
1000ドル以下	3	1.13	3.83	25	29
1000-1999ドル	11	2.05	8.92	38	36
2000-2999	17	2.37	12.35	43	45
3000-4999	23	3.56	12.14	60	68
5000 以上	38	3.71	14.09	68	158
農 村					
500ドル以下	1	0.07	1.44	9	16
500-999ドル	2	0.13	1.61	9	18
1000-1999	3	0.33	1.71	8	25
3000 以上	6	0.45	2.28	20	36

1. 都市家族の中には、世帯をもたぬ家族又は単独の消費者をふくみます。
2. 既成品は小麦粉/パンに対し、 $\frac{1}{3}$ に等しいと考えられる。

家事作業を軽くするための支出

家事作業を軽くするため、今用いられている最も重要な方法は、商品とサービスとを買うことです。一家族にとつても、単独の消費者にとつても、外食することなどの程度に多くなつたかは、居住の場所及び所得の水準によつて、一様に示されています。所得が多くなるにつれて、外食が着しくふえてきます。

食物を調理する量を減らす、も一つのものは、小麦粉その他の原料用の食品にくらべて、菓子その他の焼いた食品を買い入れる量の多少であります。これもまた、一様に現われています。都市と農村の家族の間には大きなもので、商店から遠い所にすむ農村の婦人は、大抵のものを家庭でやります。

洗濯は都市のホーム・メーカーがやらすにすぎず、そうとすることは、極所得と、不便なこととが、農村の家庭が洗濯物を余り外に出さない原因となつてゐることは疑をいれませんが、数字は第一表に出てゐます。

成年男子、十六才及びそれ以上の少年のための家庭裁縫へおもに材料購入)用の支出が、ごく稀であることを知つて驚く人はないでしょう。その他の家族のための家庭裁縫用の支出が、相対的に多いことは、第一表に出てゐます。一九四一年に、一才から十五才までの子供のために、布地を買つた人々の報告によれば、都市と農村の非農家一、一、農村一四でした。

表(2) 家庭裁縫の重要性の度合 —— 合家園 1941

性別と年齢グループ	家庭裁縫の支出について報告した家庭の割合			家庭裁縫のために使われた衣服予算		
	都 市	農村 非農家	農村 農家	都 市	農村 非農家	農村 農家
2 年 以下	30	48	64	49	8.1	12.7
女子 2-15 年	39	50	67	29	5.9	8.3
女子 16 年及び以上	36	53	60	25	4.5	6.1
男子 2-15 年	11	21	22	6	1.3	1.5
男子 16 年及び以上	4	4	5	2	0.2	0.1

家事のために費される時間

こゝで何種となつてゐるホーム・メーカーは収入を伴う仕事を全然又は少ししかしてゐない人たちです。一九二四年から一九三一年にかけて、人間の栄養及び家庭経済面は漸次五三九、都市六九〇のホーム・メーカーからの記録を集めました。このうち都市のホーム・メーカーは全初大学卒業生でした。こういうホーム・メーカーの集団は全國民の横断面を提示しないにしても、その報告は家族の望とそれほどハツキリしないが共同社会の型によつて時間の使いかたのちがいを示はかる、かなり満足なものさしとなります。

一週間の平均労働時間は長く、一四八時間一週五日の労働日を越えるかたに二九、産業のホーム・メーカーの場合は六十一時間、都市の場合は五十時間です。産業のホーム・メーカーの五分の一、人口十万又はそれ以上の都市のホーム・メーカーの七〇は、一週七十時間又はそれ以上の労働を報告しました。一週三〇時間以下の報告をしたものは産業では二〇、都市のホーム・メーカーでは七〇にすぎませんでした。どういふ型の共同社会にしても、食料のための活動が第一に重要になつてゐます。産業の婦人にとつては、それは家事に要する時間全体の半分より少し少く、都市の婦人の場合は約三分の一に当ります。いさどいふ時すくまにちやうど手をあけていなければならぬので、子供の世話は素外時間をくちものですが、家事に要する時間のうち子供の世話を費す時間の重要さは逆少評価されがちです。けれども子供の世話は家族の生活史を通じて、肉体的な負担が変化することを示してゐます。子供の世話は乳児をふくめてゐる時に絶頂に達します。人口十万以下の都市のホーム・メーカーにとつて、求の子の年によつて児は、子供の世話を費す一週当りの時間は、一才以下廿八時間、一才一歳、十六時間、三才一歳、十八時間、六才一歳、六時間、十歳以上五時間です。

未来は何をもたりますか

家事作業がもつてへらぬいぬを残念がる人々もありです。それは多くのホーム・メーカーの態度をふくめて文化内におくられた態度、ふえてゆく労働の供給を止はしから消化できないような結果を求む至清極の罪に帰せられてゐます。そういう人々は家庭で行われる仕事が一方向であり、収入ある職業につく有夫の婦人がますます少くゐていくことを予想してゐます。他方、社会には家事作業の量が増えることを阻止がつもりした至清極基盤があり、よくバランスのとれた家計は、労働力の中の有夫の女子を、がやすうにもへらすだろうと考える人々もありです。こういう人々は、アメリカの生活水準は、妻や母が家族のため、にゆく時間を相当多く必要とすると考えてゐます。過去によつて将来の見面しをつけるならば、まだく、家事作業はへつていくにちがひなく、またこのさき何年かの商場人の職業もふえるにちがひありません。いろいろの社会的変化が起る時、それは始めはゆるゆると、やがて次第に速度を加え、更にまたゆるくゆるのが正當な至路です。ホーム・メーカーの経済的書寫の重要さをへらしてきた多くの横行はまだひろがつていくばかりで、止まる様子は見えません。

未来を卜するに當つて、一方ではこの上家事作業がへつていくことを阻止するもの、他方ではホーム・メーカーの経済的書寫をがやすうな変化を考へなければなりません。

いろいろの要素の中にはごくつまらないものもあります。これ以上家事のへるのを妨げる要素の中で最も重要ではないが、時々恐ろしく誇張される一つは、妻が嫁ぐことに対する夫の反対です。これは恐らく同族の相当大きな割合に立つて非常に重要なものであつたことではないと思ひます。工場や事務所で働くのにくらべ、特に職業が重なる家事作業と兼ねて行われる時、家事だけの場合が自由とひきとに思はれてゐる利益の方が重要なように思われまゝ。まだ残つてゐる家事作業の負担を、やすい費用で肩代りするものは、促進することが、婦人をして素に職業に従はせるでしょう。子供の世話だけは別として、そういうもの

は大いに発達する見込みがあります。さらに普遍に家族の手で採られない物に対する欲望の増加が、貨幣所得をふやすために、ホーム・メーカーをして家業の手を離れさせるようになるでしょう。広告が婦人を家業から引きだす有力な手段だと見る人もあります。

將來を平想するに當つて、人々が注目せうな場所、家族を養ふ資財所得、子供らを教育せしめ、世襲する母親代りの手紙で送ること、職業、特にパート・タイムの職業があるか、ないか、ということを知悉するのが一番、大事なことに思ひます。

將來養老に往き家族の割合がへつていく様子が現れます。この変化は必ず家柄次第を多くへらすこととしよう。都市生活の多くの特徴を嘆いて非養家がだん／＼激らばつて、子扶の遊び場所やそのほかの家庭的活動と同じく家庭その他食料供給の源泉をもつ田圃的環境に住むようになる目を予想している人々もあります。けれども希望の考察やでん／＼だら／＼の行動はハツギリした運動をなしません。

貨幣所得が少ければ多いほど金で買う品物やサービスを含め利用することができるようになります。同時に夫の収入が少くなればなるほど、妻や母が収入のある業務に従う割合は少くなります。低所得の家庭にはフルタイムの本・メーカートのサービスを利用することはできないと感じている者がいくらかあります。一九三九年には一耳の所得一ドル以下の夫々同意している妻で、十才以下の子供をもつ者が大都市の労働力の一四%を占めていました。二ドル又はそれ以上の所得者の妻は三%にすぎませんでした。夫の異収入が少いか、母親扶財料又はあらゆる種類の子供の手当が少く出ることによつて多くの家庭の収入が増すことは、本・メーカートの妻と高い水準に維持し、母ちゃんが付いているから乳母車に錢をかけたおかれる子供や、首にドアの鍵をつるしたまゝ、ブランクしてゐる子供の数をへらし、一冊のうち何時間かを家庭で必要の仕事にさくことなどでまないために、多くの本・メーカートはきいてほしいですが、金になる仕事をしなくてむくえるだけの収入があればそれを防ぐことができるでしょう。一九四〇年の調査報告は、婦人が労働力にかゝるか否かを決定する上に及ぼす子供の力を示す資料を示

しています。大都市では一キドルないし一千五百ドルの資金又は嫁給をうける夫と決にす。十才以下の
子供のない婦人が労働力の中の二二%を示しています。十才以下の子供一人又はそれ以上をもつ婦人
の場合には九%にすぎませんでした。子供が幼いほど母親が労働力に加わることは少いのです。一九四〇年
の調査では五才以下の子供をもつ場合に対し、五才から九才までの子供をもつ場合は、母親の働く割合が
三分の一をこえたのでした。

子供の世帯は大規模の施設に任されません。そこで直はフルタイムのホーム・メーカーの数がもつとべる事を助ける。若しい原因の中に教えられるければなりません。一九四六年の悪い出生率は、来るべき数年間に著しい影響を及ぼすことゝ思います。

母親が学令前の子供の世話をするとは、多くの家庭にとつて必要不可欠のことのできないことです。大抵の場合、母親代りによく子供の世話をする人に將う費用は、よほど給料の高い職業婦人でなければ補充ない程度のものです。のみならず、学校にいく子供はせい／＼一日のうち五六時間母親の手を離れているだけ。職業又は学校へ行くことを妨げるほかの條件のもとに於ては、二十四時間世話をする用意をしていなければならないのです。そこで子供たちが高専学校を出るまで、専ら家庭の仕事にかゝつていなければならぬいと感ずる母親が多いのはふじぎでありません。いざ普通道にむつてゐる小人数の家族にもかゝり、わらず、才一玉が生れてから、長子が学校を出るまでに二十五年から三十五年たつてしまふ母親が相対多いのです。学令前の子供を世話するための哺育所や幼稚学校はいくらかありはするものゝ、それは大したものではないかもしれません。一八四四年までに、わずか五万三千人の子供たちが連邦政府から補助金を貰つてゐる育児所で世話されてゐたにすぎません。これは二六から四才までの子供毎一千人につきて人の割合です。

全消金体の中でホーム・メーカーが占める重要な地位及び家庭の営みかたの習識の失でも、家族の生活する條件についても起つてきている急激な変化は、ホーム・メーカーについての広範な教育を必要とせざるべし。

からざるものにしています。大抵の婦人がホムム、メーカーで、同時に消費者であるという二重の資格をもっているのです。或人教育はこの点で非常に大きな役割をもっています。とりわけ子供が幼い頃のフル、タイムの主婦の重要さのために、家族はいま貨幣経済の中に生きていくのだという事実をごまかさずにはなりません。かれらは家族の生産を補うだけの金のある場合しか、フルタイムのホムム、メーカーを利用することはできないのです。次のような二つの條件が満たされなければ、家族の営みも改善され、ほかの生産も増加するというエ合にもつとバランスがとれるようになるでしょう。即ち(一)幼児をもつ母親が働く必要はないほど極端な食費に圧迫されないだけに、一家の最優所得の水準が保たれること。(二)ホムム、メーカーのためのパート、タイムの仕事と、家庭で世話をする代りに割合にやすい消費施設ができること。

著者経済博士マーカレット・レイド女史は、ワシントンD.C.の人権栄養及び家庭経済局家族経済課長(16)で、著者アイオワ州立大学経済学教授を務める「家庭生産の至道」(一九三四年)、「消費者と市場」(一九三八)、「人々のための食物」(一九四三年)その他の著述がある。

昭和二十九年三月十八日 印刷
昭和二十九年三月二十日 発行

発行人 労働省婦人少年局

印刷人 竹 庄 社